

政治哲学で考える戦争と平和・再考

—平和主義と戦後日本—

関西大学政策創造学部准教授

松元雅和

- * 政治哲学の分析方法とは何か
- * 平和の概念①「紛争がない」という平和
- * 同②戦う余地がある「目標としての平和」
- * 同③暴力を忌避する「手段としての平和」
- * 平和主義の二つのタイプ
- * 戦後日本の平和主義とは何だったのか
- * 50年代、風向きの変化と護憲派の優勢
- * 90年代に変化した日本の平和主義
- * 「積極的平和主義」と「平和」の変質
- * 相手を変えたければ、自分も変わることに



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、関西大学の松元雅和先生においていただきました。本日は「石橋湛山賞」の記念講演会を兼ねております。本年は、今日お話しただく松元先生と、それから再来週10月17日にお話しいただく白井聡先生（『永統敗戦論——戦後日本の核心』太田出版）の、おふた方が今年の石橋湛山賞の受賞者となりました。松元先生の受賞作は『平和主義とは何か——政治哲学で考える戦争と平和』という本でございまして、中公新書から発刊されております。

ご存じのように石橋湛山は、戦前・戦中・戦後にわたって、日本および国際関係の平和という問題にたいへん深くかかわった言論を展開してきました。今回、松元先生のご著書は、審査

の過程でも何人の方がおっしゃっておられましたが、たいへん精緻な理論構成で、平和というものについて多面から分析をされ、単なる理念ではなく現実に基づいた平和というものをどう構築するかを論じておられます。

最近では安倍首相が「積極的平和主義」という、何かよく分からないことをおっしゃるわけですが、われわれも日頃、「平和」あるいは「平和主義」というものについて、真剣に考えていないようなところがあります。そういう意味で、今ちょっと危ないことが起きているのかもしれない現実の中、先生から平和について、精緻なお話をお聞かせいただけると幸いです。

それでは松元先生、よろしくお願いいたします。（拍手）